

チームオレンジについて

西区在宅ケア連絡会

令和8年8月20日

西区健康・子ども課 地域保健一係長 高田美希



本日の内容

- 1 札幌市の認知症高齢者の状況と
目指す認知症共生社会
- 2 チームオレンジとは
- 3 札幌市のチームオレンジ

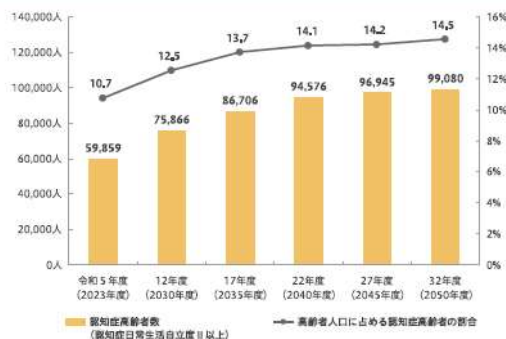


1 札幌市の認知症高齢者の状況と目指す認知症共生社会

札幌市の認知症高齢者の状況①

- 高齢者の9人に1人が認知症（令和5年10月1日現在）
- 2050年には認知症高齢者がさらに増加し、高齢者の7人に1人が認知症という状況になる見通し

認知症高齢者数及び高齢者人口に占める割合の将来見通し



誰もがなりうる身近なもの

高齢者人口に占める
認知症高齢者の割合

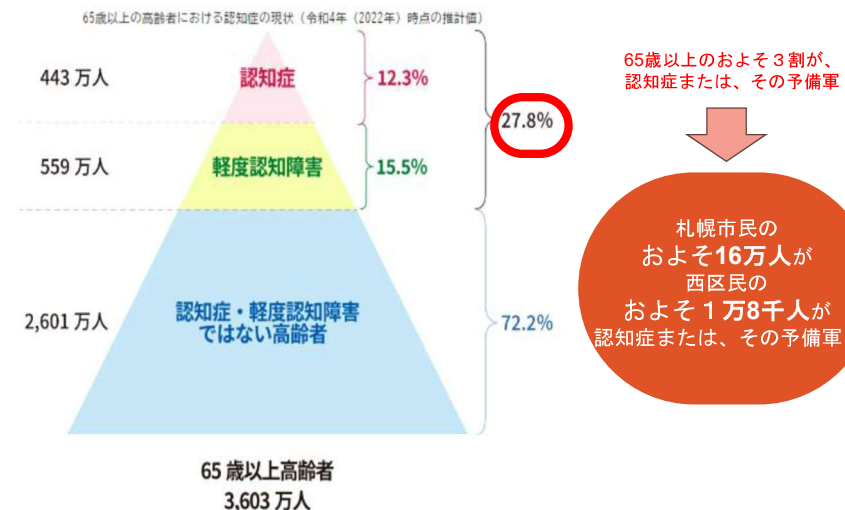
年齢区分	割合
65～69歳	1.1%
70～74歳	2.7%
75～79歳	6.0%
80～84歳	14.0%
85～89歳	28.3%
90歳以上	49.2%

(札幌市保健福祉局 令和5年10月1日現在)

資料：札幌市保健福祉局推計（毎年10月1日現在）

1 札幌市の認知症高齢者の状況と目指す認知症共生社会

札幌市の認知症高齢者の状況②



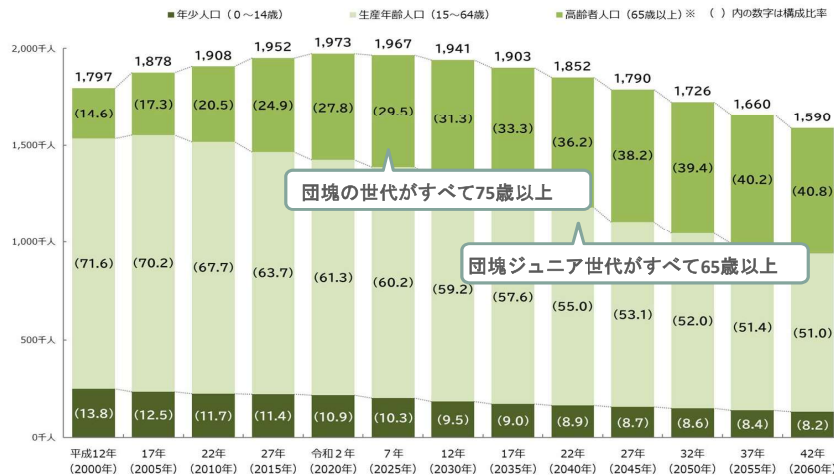
資料：厚生労働省「認知症及び軽度認知障害（MCI）の高齢者数と有病率の将来推計」から政府広報室作成

1 札幌市の認知症高齢者の状況と目指す認知症共生社会



札幌市の人口の将来見通し

札幌市の高齢化率は進行し、令和32年（2050年）には39.4%まで上昇していくことが見込まれます。総人口の減少と少子高齢化はますます進行し、生産年齢人口の割合も減少していきます。



資料：総務省統計局「国勢調査結果」（平成12年（2000年）～令和2年（2020年）、各年10月1日現在）
札幌市まちづくり政策局推計（令和7年（2025年）～42年（2060年）、各年10月1日現在）
札幌市高齢者支援計画2024より

5

1 札幌市の認知症高齢者の状況と目指す認知症共生社会

認知症施策推進基本計画の策定と重点目標

共生社会の実現を推進する「基本計画」の策定（令和6年12月策定）

認知症基本法に基づき、政府が講ずる最も基本的な計画。認知症の人と家族等の参画を得て、希望を持って自分らしく暮らせる「新しい認知症観」の推進を目指す。

計画の方向性 基本方針と推進体制

- 政府一体となって推進するほか、地方自治体は地域の実情に応じた「**地方計画**」の策定に努める
- 最大の特徴は、施策の立案から実施・評価のプロセス自体に「**認知症の人と家族等**」が**参画**すること
- 医療・介護の枠組みを超え、交通・雇用・教育など**多様な分野が横断的に連携**して推進

重点目標

- 目標1：新しい認知症観の理解**
「何もできなくなる」という誤解を解き、主体的な暮らしを国民全体が理解する
- 目標2：意思の尊重と自己決定**
地域生活や意思決定支援を通じて、本人が望む暮らしの継続を尊重する
- 目標3：地域での支え合いと安心**
バリアフリー化やピアサポートにより、孤立せず安心して暮らせる地域づくり
- 目標4：新たな知見や技術の活用**
予防・診断・治療の研究成果やICT介護機器等を社会実装し、還元する



1 札幌市の認知症高齢者の状況と目指す認知症共生社会

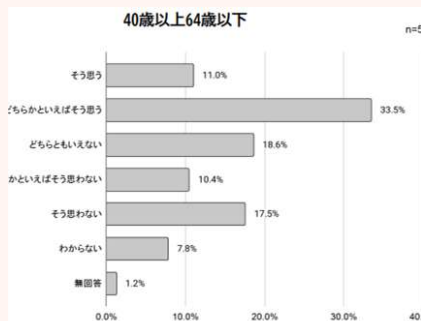
認知症の方に対する世間の意識（「そう思う」「まあそう思う」の合計）

認知症の方が偏見をもって見られる傾向について、40～64歳では約4.5割、65歳以上では約4割が「偏見がある」と回答

40歳以上64歳以下 (n=565)

44.5%

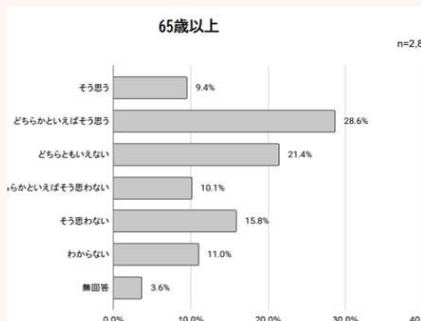
が「偏見をもって見られる傾向がある」と回答



65歳以上 (n=2,836)

38.0%

が「偏見をもって見られる傾向がある」と回答



資料：札幌市保健福祉局「高齢社会に関する意識調査」（令和7年度（2025年度））

7

1 札幌市の認知症高齢者の状況と目指す認知症共生社会

「新しい認知症観」とは

これまでの誤解・偏見
**認知症になったら
なにもできなくなる**
という固定観念

arrow
_f
or
ward

これからの「新しい認知症観」

認知症になってからも

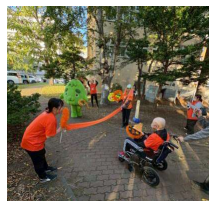
- 一人一人が個人として
できること・やりたいことがある
- 住み慣れた地域で
仲間とつながりながら
- 希望を持って自分らしく暮らし続けることができる**
という主体性を尊重する考え方



8

1 札幌市の認知症高齢者の状況と目指す認知症共生社会

新しい認知症観を広める普及啓発（西区の取組）



認知症についての正しい理解を啓発するリーフレット

西区やまべチームとしてRUN伴北海道への参加

9

1 札幌市の認知症高齢者の状況と目指す認知症共生社会



札幌市の目標

認知症になっても住み慣れた地域で

生きがいと希望を持って 自分らしく

暮らし続けられるまちづくり

チームオレンジの目指す姿



「支援する人」「支援される人」の垣根を超えた共生社会を目指します

10

2 チームオレンジとは



チームオレンジとは、認知症と思われる初期の段階から、心理面・生活面の支援として、認知症の方の悩みや家族の身近な生活支援ニーズ等と認知症サポーターを中心とした支援者をつなぐ仕組みのことです。

たとえば・・・



認知症の方のやりたいことを一緒に叶えることが、チームオレンジです

11

2 チームオレンジとは

チームオレンジのメンバーと役割

オレンジコーディネーター

地域包括支援センターの専門職員で、チームオレンジの整備を推進していくための中核的な役割を担います。

- ① チームオレンジの立ち上げ
- ② ステップアップ講座の企画・開催
- ③ スマイルオレンジチームの運営
- ④ 認知症の方、家族の困りごとへの支援とオレンジサポーターのマッチング
- ⑤ チーム運営に対する助言等
- ⑥ 各地区内のチームオレンジネットワークの構築
- ⑦ チームオレンジの普及啓発

認知症の方や家族

認知症の疑いのある方や軽度認知障害（MCI）の方、また診断を受けて要介護認定や介護保険サービスを利用している方も対象とし、認知症の方の社会参加の場とします。
家族もチームオレンジの参加者として活動することで、家族同士や地域住民、オレンジサポーターとの交流により介護負担の軽減をはかります。

オレンジサポーター

「認知症サポーターステップアップ講座研修」を修了し、チームオレンジの活動に協力の同意をした方をオレンジサポーターと呼称します。



ステップアップ
生活の場で、
認知症の方を支える

オレンジサポーター

「認知症サポーターステップアップ講座」を修了した方

認知症サポーター

「認知症サポーター養成講座」を修了した方



12

2 チームオレンジとは ステップアップ講座について



認知症サポーター養成講座

認知症サポーターに期待されること

- ☑ 認知症に対して正しく理解し、偏見を持たない。
- ☑ 認知症の人や家族に対してあたたかい目で見守る。
- ☑ 近隣の認知症の人や家族に対して、自分なりにできることから実践する。
- ☑ 地域でできることを探し、相互扶助・協力・連携、ネットワークをつくる。
- ☑ まちづくりを担う地域のリーダーとして活躍する。

ステップアップ講座

認知症サポーター養成講座で学んだことを土台に、実践の場で必要となる知識、身近に交流し必要に応じて手助けするためのスキル等の修得を目指します。

ステップアップ講座修了者は、
「オレンジサポーター」
に参加登録できます



さあ！ 支援をつなぐ仕組み
チームオレンジへ

「もっと学びたい！」
「もっと何かできそう！」

13

3 札幌市のチームオレンジ

札幌市の認知症の方と家族を取り巻く課題

認知症の方と家族の課題

高齢化の進行と、認知症高齢者の増加によって・・・



- ・ 認知症の方が孤立
- ・ 早期からの支援に繋がらずに悪化してしまう
- ・ 認知症の方の「やりたいこと」を発信する機会が不足
- ・ 家族が介護負担を抱え込む

地域の担い手の課題



認知症サポーター

- ・ 令和6年度（2024年度）末までに累計15万人を超える方が認知症サポーター養成講座を修了！
- ・ 「何かしたい！」「認知症の方の役に立ちたい！」と思っても、市内に活動の場が少ない。

講座は受けたし、何かできることをしたいのだけど、どこで協力できるの？

チームオレンジによって、繋がりました！

※チームオレンジ：認知症の方や家族の困りごと・手伝ってほしいことと、認知症サポーターを中心とした支援をつなぐ仕組み

14

3 札幌市のチームオレンジ

①スマイルオレンジチーム

認知症の方や家族の交流、社会参加の場として、認知症の方がやってみたい活動は何かを聞き出し、実現できるような支援を行います。

令和6年度より5区でモデル事業としてスタート！
西区では令和8年度から開始



スマイルオレンジチーム
(常設の拠点活動の場)

内容

- 認知症のご本人がやってみたいこと、希望を話し、実現に向けて話し合う
- 本人同士、家族同士の語らい
- 認知症普及啓発のためのイベントを企画

家族等

認知症の方

オレンジサポーター

15

3 札幌市のチームオレンジ

②個別のマッチング

地域包括支援センターで相談受付した認知症の方や家族を対象とし、個別の困りごとに対してオレンジサポーターとのマッチングを行い、オレンジサポーターが認知症の方や家族への個別の支援を行います。



個別のマッチング

支援メニュー例

外出支援

- ・ 認知症の本人の外出支援
(散歩、買物、理美容、スマイルオレンジチーム、認知症カフェ等への同行など
また、認知症の方が行きたい場所、趣味活動の支援のための外出も含む。
※病院受診の同行は対象外)
- ・ 家族の外出支援
(家族の外出の際、認知症の方を見守りながらの同行や、公共の場での見守りなど)

出前支援

- ・ 認知症の人の自宅を訪れて話し相手や、本人の趣味活動の支援など
※訪問は家族同席のもととし、2人きりとなる自宅での支援は対象外

その他

- ・ 常日頃からの声掛けや見守り、単身高齢者への定期的巡回など



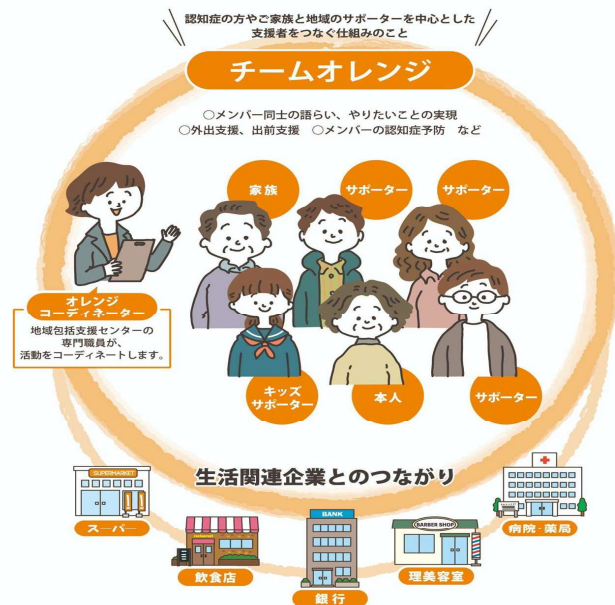
家族等

オレンジサポーター

認知症の方

16

3 札幌市のチームオレンジ



17

3 札幌市のチームオレンジ

チームオレンジの活動により期待される効果

◆認知症の方本人への効果

・介護保険サービスを利用する前の認知症疑い、初期の認知症の方がつながり、社会参加の場、孤立感が解消される場として機能。

⇒認知症初期段階からつながることで、症状安定、重度化予防も期待

◆家族への効果

・オレンジサポーターとの交流により、介護負担軽減

⇒介護で苦勞していることを受け入れ理解して
くれる場として機能

◆オレンジサポーターへの効果

・認知症本人との関わりを通し「認知症は特別なことではなく誰かがなりうる」「認知症になってもできることがある」といった「新しい認知症観」を理解し、地域へ伝承していくことができる。

・サポーター自身の社会参加の場となり、生きがい、介護予防につながる。

◆地域全体への効果

・医療、介護等関係機関（民間企業や団体など）との連携が促進され、認知症の方を支える地域のネットワークづくりへとつながる。

・地域へ理解が広まり、認知症があっても安心して暮らせる地域づくりへつながる。

3 札幌市のチームオレンジ

チームオレンジの目指す姿



先行モデル区の取組状況は
こちらから確認できます！



19